安全データシート（ＳＤＳ）

１.化学品及び会社情報

昭　和　化　学　株　式　会　社
東京都中央区日本橋本町４－３－８
担当
TEL(03)3270-2701
FAX(03)3270-2720
緊急連絡　　同　上
改訂日　　2024/05/15
SDS整理番号　13442132

製品等のコード　：　1344-2132

製品等の名称　　：　ブロモメタン

推奨用途　　：　試薬

参考：その他の用途(当該製品規格に限定されない一般的用途。規格により用途は相違。)
有機臭化物、有機合成原料、食糧くん蒸剤、農薬（殺虫剤）　など

使用上の制限　　：　推奨用途以外の用途へ使用する場合は化学物質専門家等の判断を仰ぐこと

Br ― CH3

2．危険有害性の要約

ＧＨＳ分類

物理化学的危険性
- 可燃性ガス　：　区分1
- 高圧ガス　：　低圧液化ガス

健康に対する有害性
- 急性毒性（経口）　：　区分3
- 急性毒性（吸入：気体）　：　区分3
- 皮膚腐食性/刺激性　：　区分2
- 眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性　：　区分2B
- 生殖細胞変異原性　：　区分2
- 生殖毒性　：　区分2
- 特定標的臓器毒性（単回ばく露）　：　区分1（神経系、呼吸器、肝臓、腎臓、消化器系）
- 特定標的臓器毒性（反復ばく露）　：　区分1（神経系、心臓、血液）

環境に対する有害性
- 水生環境有害性 短期(急性)　：　区分1
- 水生環境有害性 長期(慢性)　：　区分1
- オゾン層への有害性　：　区分1

注意喚起語：　危険

危険有害性情報
- 極めて可燃性の高いガス
- 高圧ガス：熱すると爆発のおそれ
- 飲み込むと有毒（経口）
- 吸入すると有毒（気体）
- 皮膚刺激
- 眼刺激
- 遺伝性疾患のおそれの疑い
- 生殖能又は胎児への悪影響のおそれの疑い
- 神経系、呼吸器、肝臓、腎臓、消化器系の障害
- 長期又は反復ばく露による神経系、心臓、血液の障害
- 水生生物に非常に強い毒性

長期的影響により水生生物に非常に強い毒性
オゾン層を破壊し、健康および環境に有害

注意書き
【安全対策】
全ての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。
熱／火花／裸火／高温のもののような着火源から遠ざけること。－禁煙。
粉じん、煙、ガス、ミスト、蒸気、スプレーを吸入しないこと。
取扱い後は、よく手を洗うこと。
この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。
屋外又は換気の良い場所でのみ使用すること。
保護手袋、保護衣、保護眼鏡、保護面を着用すること。
環境への放出を避けること。
【応急措置】
飲み込んだ場合：口をすすぐこと。直ちに医師に連絡すること。
吸入した場合：空気の新鮮な場所に移し呼吸しやすい姿勢で休息させること。医師に連絡する。
皮膚に付着した場合：多量の水と石鹸で洗うこと。
眼に入った場合：水で15分以上注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。
ばく露又はばく露の懸念がある場合：医師に連絡すること。
気分が悪い時は、医師の診察、手当を受けること。
皮膚刺激が生じた場合：医師の診察、手当を受けること。
眼の刺激が続く場合：医師の診察、手当を受けること。
汚染された衣類を脱ぎ、再使用する場合には洗濯をすること。
漏洩ガス火災の場合：漏洩が安全に停止されない限り消火しないこと。
安全に対処できるならば着火源を除去すること。
漏出物を回収すること。
【保管】
日光から遮断して容器を密閉し換気の良い場所で施錠して保管すること。
【廃棄】
回収、リサイクルに関する情報について製造業者、供給者に問い合わせること。
内容物、容器を都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に業務委託すること。

（注）物理化学的危険性、健康に対する有害性、環境に対する有害性に関し、上記以外の項目は、現時点で「区分に該当しない(分類対象外も該当)」又は「分類できない」である。

3.組成及び成分情報

化学物質・混合物の区分	：	化学物質
化学名	：	ブロモメタン （別名）臭化メチル （英名）Bromomethane（EC名称）、Methyl bromide、Methane, bromo-（TSCA名称）
成分及び含有量	：	ブロモメタン、 99.0%以上
化学式及び構造式	：	CH3Br、 構造式は上図参照(1ページ目)。
分子量	：	94.94
官報公示整理番号	：	(2)－39（化審法）、 2-(13)-70（安衛法）
CAS No.	：	74-83-9
EC No.	：	200-813-2
危険有害成分	：	ブロモメタン

4. 応急措置

吸入した場合	：	直ちに医師に連絡する。 空気の新鮮な場所に移し呼吸しやすい姿勢で休息させる。 気分が悪い時は、医師の手当、診断を受けること。
皮膚に付着した場合	：	直ちに、汚染された衣類をすべて脱ぐ、又は取り去る。 皮膚を多量の水と石鹸で洗う。。 皮膚刺激が生じた時は、医師の手当、診断を受ける。 汚染された衣類を再使用する前に洗濯する。
目に入った場合	：	直ちに水で15分以上注意深く洗う。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外す。その後も洗浄を続ける。 眼の刺激が持続する場合は、医師の診断、治療を受ける。
飲み込んだ場合	：	直ちに医師に連絡する。 口をすすぎ、うがいをする。 気分が悪い時は、医師の手当、診断を受ける。
予想される急性症状及び遅発性症状	：	吸入により、めまい、頭痛、嘔吐、脱力感、幻覚、言語障害、協調運動失調、息苦しさ、痙攣。 皮膚へのばく露は、刺痛、かゆみ、灼熱感、発赤、水泡、痛み。液体

に触れた場合には凍傷。他の症状については「吸入」参照。
眼へのばく露は発赤、痛み、かすみ眼、一過性の視力喪失。
応急措置をする者の保護 : 火気厳禁。有機ガス用の保護マスクが有ればそれを着用する。
医師に対する特別注意事項: 安静に保ち、医学的な経過観察が必要である。

5. 火災時の措置

適切な消火剤 : 小火災：粉末消火剤、二酸化炭素、散水、耐アルコール性泡消火剤
大火災：散水、噴霧水、耐アルコール性泡消火剤
使ってはならない消火剤 : 棒状注水
特有の危険有害性 : 容易に発火するおそれがある。
加熱により容器が爆発するおそれがある。
破裂したボンベが飛翔するおそれがある。
火災によって刺激性、又は毒性のガスを発生するおそれがある。
極めて引火性/可燃性の高いガスである。
屋内、屋外又は下水溝で気体爆発の危険がある。
特有の消火方法 : 漏洩が安全に停止されない限り消火しない。
安全に対処できるならば着火源を除去する。
危険でなければ火災区域から容器を移動する。
ガスの滞留しない場所で風上より消火し、漏洩防止処置を施す。
消火後も、大量の水を用いて十分に容器を冷却する。
漏洩部や安全装置に直接水をかけてはいけない。凍るおそれがある。
消火活動は、有効に行える十分な距離から行う。
周辺設備等の輻射熱による温度上昇を防止するため、水スプレーにより周辺を冷却する。
消火を行う者の保護 : 消火作業の際は、適切な空気呼吸器、化学用保護衣を着用する。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置
: 漏洩物に触れたり、その中を歩いたりしない。
直ちに、全ての方向に適切な距離を漏洩区域として隔離する。
関係者以外の立入りを禁止する。
作業者は適切な保護具を着用し、眼、皮膚への接触や吸入を避ける。
風上に留まる。
低地から離れる。
密閉された場所に立入る前に換気する。
漏洩しても火災が発生していない場合、密閉性の高い、不浸透性の保護衣を着用する。
ガスが拡散するまでその区域を立入禁止とする。
環境に対する注意事項 : 環境中に放出してはならない。
河川等に排出され、環境へ影響を起こさないように注意する。
回収、中和 : 少量の場合、乾燥土、砂や不燃材料で吸収し、あるいは覆って密閉できる空容器に回収する。後で廃棄処理する。
少量の場合吸収したものを集めるとき、清潔な帯電防止工具を用いる。
大量の場合盛土で囲って流出を防止し、安全な場所に導いて回収する。
大量の場合、散水は、蒸気濃度を低下させる。しかし、密閉された場所では燃焼を抑えることが出来ないおそれがある。
封じ込め及び浄化の方法・機材
: 危険でなければ漏れを止める。
漏出物を取扱うとき用いる全ての設備は接地する。
可能ならば、漏洩している容器を回転させ、液体でなく気体が放出するようにする。
蒸発を抑え、蒸気の拡散を防ぐため散水を行う。
二次災害の防止策 : すべての発火源を速やかに取除く（近傍での喫煙、火花や火炎の禁止）
排水溝、下水溝、地下室あるいは閉鎖場所への流入を防ぐ。
漏洩物又は漏洩源に直接水をかけない。
ガスが拡散するまでその場所を隔離する。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い
技術的対策 : 裸火禁止。
アルミニウム、亜鉛、マグネシウム、純酸素との接触禁止。
炎、火花または高温体との接触を避ける。
静電気対策を行い、作業衣、靴等も導電性の物を用いる。6
本製品を取扱う場合、必ず保護具を着用する。
局所排気・全体換気 : 作業場には防ばく型の局所排気装置またはプッシュプル型換気装置を設置する。
安全取扱い注意事項 : すべての安全注意を読み理解するまで取扱わない。
屋外又は換気の良い場所でのみ使用する。

周辺での高温物、スパーク、火気の使用を禁止する。
容器は丁寧に取り扱い、衝撃を与えたり、転倒させない。
使用後は、バルブを完全に閉め、口金キャップを取り付け、保護キャップを付ける。
漏洩すると、発火、爆発する危険性がある。
飲み込みを避ける。
接触、吸入又は飲み込まない。
眼、皮膚との接触を避ける。
眼に入れない。
内容物を故意に吸い込まない。
ガスを吸入しない。
目や口に入ると刺激を受けることがあり、使用の際には十分気を付ける。
容器の取り付け、取り外しの作業の際は、漏洩させないよう、十分注意する。
吸入すると、死亡する危険性がある。
この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしない。
取扱い後はよく手を洗う。

接触回避 ： 炎、火花または高温体との接触を避ける。

保管

技術的対策 ： 専用の高圧ガス容器に保管する。
容器は保安上使用開始後1年以内に、速やかに販売事業者に返却すること（高圧ガス保安協会指針）。

混触危険物質 ： 酸化剤、酸素、爆発物、ハロゲン、圧縮空気、酸、塩基

保管条件 ： 熱、火花、裸火のような着火源から離して保管する。－禁煙。
着火源から離して保管する。
酸化剤、酸素、爆発物、ハロゲン、圧縮空気、酸、塩基、食品化学品等から離して保管する。
容器は直射日光や火気を避け、40℃以下の温度で保管する。
容器を密閉して換気の良い場所で保管する。
一定の場所を定めて、施錠して保管する。
貯蔵する所には、白地に赤枠、赤文字で「医薬用外劇物」の表示を行う。

容器包装材料 ： ガスボンベなど

8．ばく露防止及び保護措置

管理濃度 ： 1ppm

許容濃度（ばく露限界値、生物学的 ばく露指標）：

日本産衛学会	1ppm 3.89mg/m3（皮）
ACGIH TLV-TWA	1ppm (Skin)

設備対策 ： 防爆の電気・照明機器を使用する。
作業場には防ばく型の局所排気装置またはプッシュプル型換気装置を設置する。
静電気放電に対する予防措置を講ずる。
この物質を貯蔵ないし取扱う作業場には洗眼器と安全シャワーを設置する。

保護具

呼吸器の保護具 ： 呼吸器保護具（有機ガス用防毒マスク）を着用する。

手の保護具 ： 保護手袋を着用する。
ニトリルゴム及び塩ビは適切な保護材料ではない。
ネオプレンが推奨される。
飛沫がとぶ可能性のあるときは、全身の化学用保護衣（耐酸スーツ等）を着用する。

眼の保護具 ： 眼の保護具を着用する。
化学飛沫用のゴーグル及び規格にあった顔面保護具を着用する。
安全眼鏡を着用すること。撥ね飛び又は噴霧によって眼及び顔面接触が起こりうる時は、包括的な化学スプラッシュゴーグル、及び顔面シールドを着用する。

皮膚及び身体の保護具 ： 保護衣、顔面用の保護具を着用する。
一切の接触を防止するにはネオプレン製の、手袋、エプロン、ブーツ、又は全体スーツ等の不浸透性の防具を適宜着用する。
しぶきの可能性がある場合は、全面耐薬品性防護服（例えば、酸スーツ）及びブーツが必要である。

衛生対策 ： この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしない。
取扱い後はよく手を洗う。

9．物理的及び化学的性質

物理状態

性状 ： 圧縮液化ガス

色	:	無色
臭い	:	無臭～わずかなクロロホルム臭
pH	:	データなし
融点	:	-94℃
凝固点	:	データなし
沸点	:	4℃
引火点	:	データなし
可燃性	:	可燃性
爆発範囲	:	下限　10vol％　上限　16vol％
蒸気圧	:	189.3kPa(20℃)
相対ガス密度（空気 = 1）	:	3.27（計算値）
密度	:	3.974g/L(20℃、気体)
相対密度	:	データなし
比重	:	データなし
溶解度	:	水に溶けにくい（1.5g/100mL、20℃）。 アルコール、クロロホルム、エーテル、二硫化炭素、四塩化炭素、ベンゼンと混和
オクタノール/水分配係数	:	log Pow = 1.19
発火点	:	537℃
分解温度	:	データなし
臭いのしきい（閾）値	:	データなし
蒸発速度（酢酸ブチル = 1）	:	データなし
粘度	:	データなし
動粘度	:	データなし
粒子特性	:	データなし

GHS分類

可燃性ガス	:	ICSC(1999) による爆発限界下限値は10vol％であり、「区分１」に該当する。なお、国連危険物輸送勧告では、引火性/可燃性ガスに該当せず、特別規定で、「限られた条件でのみ可燃性を示す」としている(国連番号1062(クロロピクリン2％を超えないもの))。また、GHS文書では、引火性/可燃性ガスの分類基準で、「規制目的によっては特殊例と見なされる」としている。 極めて可燃性の高いガス（区分1）
高圧ガス	:	ICSC(1999)による沸点は4℃、かつMerck(13th,2001)による臨界温度は194℃であり、「グループ液化ガス」に該当する。国連危険物輸送勧告ではクラス・区分2.3(国連番号1062(クロロピクリン2％を超えないもの))。 高圧ガス：熱すると爆発のおそれ（低圧液化ガス）

10．安定性及び反応性

安定性（反応性・化学的安定性）	:	難燃性で、通常は燃焼を抑制する作用があるが、特定の条件下（酸素中または爆発限界の濃度においては高エネルギー着火源の存在下）では燃焼する。 加熱燃焼すると分解し、臭化水素、臭素、オキシ臭化炭素などの毒性で腐食性のあるヒュームを生成する。
危険有害反応可能性	:	水の存在下で多くの金属を侵す。 強酸化剤と反応する。 アルミニウムや亜鉛、マグネシウムと反応して、火災と爆発の危険性をもたらす。
避けるべき条件	:	高熱、裸火、スパーク、その他熱源、日光
混触危険物質	:	強酸化剤、強塩基、アルミニウム、亜鉛、マグネシウム、純酸素。 ある種のプラスチック、ゴムを侵す。
危険有害な分解生成物	:	燃焼した時、有害ガス(臭化水素、臭素、一酸化炭素等)を発生する。

11．有害性情報

急性毒性	:	経口　ラット　LD50＝104mg/kg、214mg/kg（SIDS(2002)）（NITE初期リスク評価書No.126(2008)）から、区分３とした。 飲み込むと有毒（経口）（区分3） 経皮　分類できない。 吸入（気体）ラット用いた吸入ばく露試験(ガス)のLC50＝781ppm（EHC166（1995））から、区分３とした。 吸入すると有毒（気体）（区分3） 吸入（蒸気、ミスト）　ガスのため区分に該当しない。
皮膚腐食性/刺激性	:	ヒトでの報告で皮膚への刺激性が多数みられている((ACGIH(7th,2001))（ATSDR(1992))（SIDS(2002)))ことから、区分２とした。 皮膚刺激（区分2）

眼に対する重篤な損傷/刺激性
：ウサギによる試験（ガス暴露試験）において、虹彩及び角膜へ陽性反応がみられたが、5日以内で消失した（NITE初期リスク評価書No.126(2008)(SIDS(2002))ことから、区分２Ｂとした。
眼刺激（区分2B）

呼吸器感作性又は皮膚感作性
：呼吸器感作性：分類できない。
皮膚感作性：分類できない。

生殖細胞変異原性 ：マウスおよびラットを用いた2週間吸入ばく露による小核試験（SIDS（2002））、およびマウス小核試験で陽性（ACGIH(2001))の結果に基づき、区分２とした。
遺伝性疾患のおそれの疑い（区分2）

発がん性 ：区分に該当しない。
混餌投与による24ヶ月の発がん性試験で腫瘍発生の増加は見られなかった（農薬登録申請資料（1988））。また、ACGIH（2001）でA4、IARC（1999）でグループ3、EPA（1990）でDに分類されている。

生殖毒性 ：ウサギの催奇形性試験で母動物に一般毒性を示す用量で児動物に奇形（胸骨の癒着、胆のう、肺の一部の欠損）がみられている（SIDS(2002)、IRIS(2002)、NITE初期リスク評価書No.126(2008))ことから、区分２とした。
生殖能または胎児への悪影響のおそれの疑い （区分2）

特定標的臓器毒性（単回ばく露） ：ヒトにおいて、意識錯乱、けいれん、昏睡、視力、吐き気、嘔吐、腎不全、胃腸障害、肝毒性がみられたとの報告（NITE初期リスク評価書No.126(2008)）に基づき区分1（神経系、腎臓、消化器系、肝臓）とした。動物においてはラットおよびマウスの経口投与において呼吸困難、運動失調、胃の異常(膨張、紅潮、他の臓器との癒着、潰瘍等)、肝臓の壊死の報告（EHCNo.166(1995)）があり、さらにラットおよびマウスの吸入ばく露において、区分1のガイダンス値（2500ppmV/4時間以下）に該当する用量で自発運動の低下、呼吸数の減少、肺炎様変化が見られたとの報告（農薬登録申請資料（1980））があることから区分１（呼吸器）とした。
神経系、呼吸器、肝臓、腎臓、消化器系の障害（区分1）

特定標的臓器毒性（反復ばく露）： ヒトにおいて脳神経への影響が報告され（NITE初期リスク評価書No.126(2008)）ていることから区分1（神経系）とした。動物においては、ラットを用いた13週間の吸入試験（NITE初期リスク評価書No.126(2008)、NTPTR385(1992))の区分2のガイダンス値（50～250ppmV）に該当する87ppmの用量でヘマトクリット値、ヘモグロビン量及び赤血球数の減少が見られ、ラットを用いた13週間の経口投与試験（IRIS(2002))では、区分1のガイダンス値（50mg/kg/day以下）に該当する36mg/kg/dayの用量で貧血がみられることから、区分1（血液）とした。また、ラットを用いた3週間の吸入試験（NITE初期リスク評価書No.126(2008)）における区分1のガイダンス値（50ppm以下）に該当する26.7ppm以上の用量で心筋の変性、精巣の変性及び壊死、嗜眠、振戦、四肢の麻痺が見られ、さらに別のラットを用いた3週間の吸入試験（NITE初期リスク評価書No.126(2008)）で33.3ppm以上で心筋の壊死及び線維化が見られている事から区分１（心臓）とした。なお13～25週間の経口投与試験（NITE初期リスク評価書No.126(2008)）において区分1のガイダンス値（50ppm以下）に該当する36～50mg/kg/dayの用量で胃の慢性炎症及び線維化、50mg/kg/dayの用量で腺胃のリンパ球浸潤、食道の慢性炎症がみられているが被験物質の刺激性によるものとして分類に採用しなかった。また、ラットを用いた3週間の吸入試験における精巣の変性及び壊死については生殖毒性が区分２であることから、ここでは分類に採用しなかった。
長期又は反復ばく露による神経系、心臓、血液の障害（区分１）

誤えん有害性 ：区分に該当しない（ガスのため）。

12．環境影響情報

生態毒性
水生環境有害性 短期(急性)：魚類（ヒメダカ）での96時間LC50=0.7mg/L（CERI･NITE有害性評価書,2008）であることから、区分１とした。
水生生物に非常に強い毒性（区分1）

水生環境有害性 長期(慢性)：急性毒性区分1、急速分解性がなく（BODによる分解度：15%（既存化学物質安全性点検データ））、生物蓄積性が低いと推定される(log Kow=1.19（PHYSPROP Database、2005）ことから、区分１とした。
長期的影響により水生生物に非常に強い毒性（区分1）

残留性・分解性 ：低分解性。BOD分解度＝15%

生物蓄積性 ： 低濃縮性。Log Kow＝1.19
土壌中の移動性 ： データなし
オゾン層への有害性 ： 当該物質はモントリオール議定書の附属書に列記されているため区分１とした。
オゾン層を破壊し、健康および環境に有害（区分1）

13．廃棄上の注意

残余廃棄物 ： 高圧ガスを廃棄する場合は、高圧ガス保安法一般高圧ガス保安規則の規定に従うこと。
オゾン層破壊物質のため、大気中に放散させないようできるだけリサイクルする。
処理に際しては、充分な知識を有した専門家に相談した後、危険性に充分配慮する。
（参考）燃焼法
可燃性溶剤と共にアフターバーナー及びスクラバーを具備した焼却炉の火室へ噴霧し焼却する。
汚染容器及び包装 ： 高圧ガスの容器を廃棄する場合は、製造業者等専門業者に回収を依頼する。

14．輸送上の注意

緊急時応急処置指針番号 ： 123

国際規制
海上規制情報（IMDGコード/IMOの規定に従う）
UN No. ： 1062
Proper Shipping Name ： METHYL BROMIDE
Class ： 2.3(毒性高圧ガス)
Sub Risk ： -
Packing Group ： -
Marine Pollutant ： Yes（該当）
航空規制情報 ： 積載禁止
国内規制
陸上規制情報（高圧ガス保安法、毒劇法、道路法の規定に従う）
海上規制情報（船舶安全法/危険物船舶輸送及び貯蔵規則/船舶による危険物の運送基準等を定める告示に従う）
国連番号 ： 1062
品名 ： 臭化メチル
クラス ： 2.3
副次危険 ： -
容器等級 ： -
海洋汚染物質 ： 該当
MARPOL73/78付属書II及びIBCコードによるばら積み輸送の有害液体物質の汚染分類 ： 非該当
航空規制情報 ： 積載禁止
特別の安全対策 ： 移動、転倒、衝撃、摩擦などを生じないように固定する。
運搬時には容器を40℃以下に保ち、特に夏場はシートをかけ温度上昇の防止に努める。
火気、熱気、直射日光に触れさせない。
輸送に際しては、直射日光を避け、容器の破損、腐食、漏れのないように積み込み、荷崩れの防止を確実に行う。
食品や飼料と一緒に輸送してはならない。
鋼材部分と直接接触しないようにする。
重量物を上乗せしない。
車輌等による運搬の際にはイエローカードを運搬人に保持させる。

15．適用法令

労働安全衛生法 ： 名称等を表示すべき危険物及び有害物
（政令番号　第303号「臭化メチル」、対象重量%は≧１）
名称等を通知すべき危険物及び有害物
（政令番号　第303号「臭化メチル」、対象重量%は≧0.1）
（別表第９）
危険物・可燃性のガス
（施行令別表第１第４号）
強い変異原性が認められた化学物質
（法第５７条の５、労働基準局長通達）
特定化学物質等 第二類物質 特定第二類物質

（特定化学物質障害予防規則第２条第１項２，３号）
作業環境評価基準
皮膚等障害化学物質等及び特別規則に基づく不浸透性の保護具等の
使用義務物質
・特化則等の特別規則「臭化メチル、対象重量%は≧１」
（安衛則第594条の2）

労働基準法 ： 疾病化学物質
（法第７５条第２項、施行規則第３５条別表第１の２第４号）

化審法 ： 優先評価化学物質の取り消し（R6年3月29日）
旧第二種監視化学物質 No.372（官報公示日：2000/09/22）
旧第三種監視化学物質 No.162（官報公示日：2010/03/19）

化学物質排出把握管理促進法
（ＰＲＴＲ法） ： ・種　　別 「第1種指定化学物質」
・政令番号 「1-429」
・管理番号 「386」
・物質名称 「ブロモメタン（別名臭化メチル）」

消防法 ： 第９条貯蔵等の届出を要する物質（200kg以上貯蔵する場合）

毒物及び劇物取締法 ： 劇物「ブロムメチル」(法第２条別表第２の７４)、包装等級III

高圧ガス保安法 ： 液化ガス
（法第２条４）

船舶安全法 ： 高圧ガス・毒性高圧ガス
（危規則第２，３条危険物告示別表第１）

航空法 ： 輸送禁止

大気汚染防止法 ： 有害大気汚染物質（中環審第９次答申の２０３）
「ブロモメタン（別名：臭化メチル）」
揮発性有機化合物（ＶＯＣ）「臭化メチル」

オゾン層保護法 ： 付属書番号 - グループ；E-I（政令番号：政令別表第9項）
「臭化メチル 」 オゾン破壊係数；0.6

輸出貿易管理令 ：キャッチオール規制（別表第1の16項）
HSコード：2903.61
第29類 有機化学品
・輸出統計番号（2024年1月版)：2903.61-000
「炭化水素のハロゲン化誘導体
－非環式炭化水素の臭素化誘導体及びよう素化
誘導体：臭化メチル（ブロモメタン）」
・輸入統計番号（2024年4月1日版)：2903.61-000
「炭化水素のハロゲン化誘導体
－非環式炭化水素の臭素化誘導体及びよう素化
誘導体：臭化メチル（ブロモメタン）」

16.その他の情報

（注）本品を試験研究用以外には使用しないで下さい。

取扱注意事項：
本製品の取扱いは毒物劇物取締法の規定に従い、購入、保管、使用及び廃棄には
細心の注意を払うこと。毒物劇物取扱等の責任者は、必要に応じ取扱う者に対し
労働安全衛生、漏洩防止、緊急時の対応、環境影響、使用記録、保管庫施錠、
紛失盗難防止などについて教育、訓練を実施し、事故の予防に努めること。

参考文献 ：

化学物質管理促進法PRTR･MSDS対象物質全データ	化学工業日報社
労働安全衛生法MSDS対象物質全データ	化学工業日報社(2007)
化学物質の危険･有害便覧	中央労働災害防止協会編
化学大辞典	共同出版
安衛法化学物質	化学工業日報社
産業中毒便覧(増補版)	医歯薬出版
化学物質安全性データブック	オーム社
公害と毒・危険物(総論編、無機編、有機編)	三共出版
化学物質の危険・有害性便覧	労働省安全衛生部監修
Registry of Toxic Effects of Chemical Substances NIOSH	CD-ROM
GHS分類結果データベース	nite (独立行政法人 製品評価技術基盤機構) HP
GHSモデルMSDS情報	中央労働災害防止協会 安全衛生情報センター HP

このデータは作成の時点においての知見によるものですが、必ずしも十分では
ありませんし、何ら保証をなすものではありませんので、取扱いには十分注意
して下さい。なお、この安全データシート(SDS)はJIS Z 7253:2019に準じ作成
しています。